

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●マイルチャンピオンシップはナミュールが優勝

11月19日(日)に行われたマイルチャンピオンシップ(G I)ではナミュール(牝4歳/栗東・高野友和厩舎)が優勝、G I初制覇を果たしました。当初騎乗予定だったライアン・ムーア騎手が負傷、藤岡康太騎手に乗り替わっての勝利で、グレード制が導入された1984年以降、騎手変更でのG I制覇は2013年桜花賞のアユサン以来10年ぶり2度目、当日変更では史上初のこと。またナミュールの生産者であるノーザンファームは、ヴィクトリアマイルからマイルチャンピオンシップまでG I・11連勝をマーク。これは同じくノーザンファームが2019年に達成した10連勝(秋華賞から有馬記念)を更新する最多連勝記録となります。

●友道康夫調教師がJRA通算700勝を達成

11月18日(土)の5回東京5日・第5レースではジャスティンミラノが1着となり、同馬を管理する友道康夫調教師(栗東)は、史上57人目、現役では9人目となるJRA通算700勝(延べ4826頭目)を達成しました。

●秋の福島競馬リーディングジョッキーは佐々木大輔騎手

11月19日(日)をもって3回福島競馬が終了し、7勝・2着6回の成績を残した佐々木大輔騎手(美浦・菊川正達厩舎)が、7勝・2着2回の永島まなみ騎手を抑えて開催リーディングジョッキーに輝きました。

●ブラヴァス、ルビーカサブランカの競走馬登録抹消

2020年新潟記念(G III)の勝ち馬ブラヴァス(牡7歳/栗東・友道康夫厩舎/JRA通算26戦5勝)、2022年愛知杯(G III)の勝ち馬ルビーカサブランカ(牝6歳/栗東・須貝尚介厩舎/JRA通算31戦5勝)は、10月25日(水)付で競走馬登録を抹消されました。ブラヴァスはアルゼンチンで種牡馬、ルビーカサブランカは北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●JRAのディクテオンが浦和記念(浦和)で重賞初制覇

浦和記念(Jpn II、11月23日、浦和、2000^円)は、最後方から向正面で一気に追いつけた5番人気のディクテオン(本田正重騎手=船橋、騾5歳、父キングカメハメハ)が、逃げ粘る3番人気のミトノオーを直線半ばで捉えて2馬身半差を付け、重賞初制覇を果たしました。1番人気に推されたテンカハルは3着、2番人気のメイショウフンジンには5着、テイエムサウスダンは8着でした。

●兵庫ジュニアグランプリ(園田)は人気のイーグルノワール

兵庫ジュニアグランプリ(Jpn II、2歳、11月22日、園田、1400^円)は、3~4番手から4コーナー手前で先頭に並んだ1番人気のイーグルノワール(松山弘平騎手、牡、父ブリックスアンドモルタル)が、2番人気のサトノフェニックスに一旦僅かに前に出られながらもハナ差で差し返しました。ゼルトザームが5馬身遅れの3着、オーキッドロマンスは6着、タリスマンは9着に敗れています。

●ミヤギヴァリアントが若駒賞を大差勝ち【各地の主要2歳重賞】

若駒賞(10月15日、盛岡、1600^円)は、3番手から3コーナー過ぎに抜け出したミヤギヴァリアント(牡、父モーニン)が後続に1秒8の大差を付け、単勝元返しの圧倒的支持にえています。

●11月29日のクイーン賞(船橋)で連覇を狙うテリオスベル

クイーン賞(Jpn III、11月29日、船橋、1800^円)は、トップハンデ56.5^{kg}も昨年の覇者テリオスベルが最有力、以下パライバトルマリン、ライオットガール、ビジンまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●香港国際競走に向けた3つのG2が開催

現地12月10日に行われる香港国際競走の重要なステップレースとなる3つのG2が11月19日に香港のシャティン競馬場で行われました。まず最初に行われたG2香ジョッキークラブスプリント(3歳上、芝1200^m)を制したのは、チェアマンスズプリントプライズ(芝1200^m)などG1・3勝の強豪ラッキースワイネス(騾5歳、父スワイネス、K.マン厩舎)。Z.パートン騎手を背に中団から末脚を伸ばしてこのレース連覇としました。続いて行われたG2香ジョッキークラブマイル(3歳上、芝1600^m)は、同じくパートン騎手が手綱を取ったビューティーエターナル(騾5歳、父スターズバングルドバナー、J.サイズ厩舎)が差して優勝。今年6月に連勝したG3ライオンロックT(芝1600^m)とG3香プレミアC(芝1400^m)に続く重賞3勝目をあげました。そして最後に行われたG2香ジョッキークラブC(3歳上、芝2000^m)は、C.ホー騎手が騎乗したストレータロン(騾5歳、父ファストネットロック、C.ファウンズ厩舎)が中団追走から直線で鋭く伸びて優勝。今年5月のG3クイーンマザーメモリアルC(芝2400^m)以来となる勝利を収め、オーストラリア調教馬時代を含めて3つ目となる重賞勝ちを果たしました。